

平成 28 年度 発達支援論コース 修論・卒論発表会

日時 2017年3月2日(木) 9:30～

場所 発達科学部2階 大会議室

第1部 修士学生の発表 9:30～10:30

- ・社会変革と地域協働を志向したサービス・ラーニングの理論と構造
- ・障害のある子どもたちが過ごす場の「ナナメの関係」—あーち「居場所づくり」活動を通して共生社会を考える—
- ・マイノリティな子どもの「居場所」の条件—周囲の大人の関わりと専門性の考察を通して—

第2部 学部学生の発表 10:50～11:50

- ・住民の相互援助を通じた地域づくりの核となる子育て支援拠点のあり方
- ・きょうだい構成による性格への影響—2人きょうだいの場合—
- ・ロシア人のジェンダー意識研究—ロシア人女性はいかにして仕事と家事・育児をこなしているか—
- ・発達障害児支援におけるストレスマネジメント教育の意義について
- ・住民の望む快適な暮らしに地域活動は必要なのか
- ・現代社会におけるテレワークが果たす役割についての—考察

第3部 学部学生の発表 13:00～14:00

- ・サイエンスコミュニケーションと省察的実践について
- ・ブラックバイトによって大学生が抱える課題とその支援策—飲食店における事例に関する考察を中心に—
- ・若者の地域愛着に関する研究—地域のプロスポーツクラブの存在との関係性—
- ・コーディネーターのいる「子ども食堂」の現状と課題—X市の「食を通じた居場所・交流の場」の事例研究—
- ・小学校の授業におけるICT教育の導入に関する考察
- ・オーストラリアの経済合理主義に基づくインクルーシブ教育の課題—Autism Queensland Schoolの事例を通して—

第4部 学部学生の発表 14:20～15:10

- ・公的年金制度の社会的意義に対する世代間意識差に関する研究—労働年齢の意識と比較した大学生の意識分析—
- ・学校に行くことが辛くなった時取るべき具体的な行動
- ・障害をもつ子どもとその家族が抱える孤立感について地域における解消方法を考察する研究
- ・健康を維持するための第二の人生における音楽の意味—神戸市シルバーカレッジの事例から—

- ・大学生が抱く就職決定後の不安について—不安感の背景から読み取れる就活システムの改善点とは—

第5部 修士学生（1年履修コース）の発表 15:20~16:50

- ・インクルーシブ教育における学びとは何か—発達障害のある中学生のエンパワーメントを促進するための一考察—
- ・外国から来た子どもたちの学力向上を支援する取り組み—算数指導の汎用性と限界—
- ・商店街を中心としたまちづくりにおけるスポーツの意義—〈王子プロジェクト〉の形成過程と取り組みに着目して—
- ・支援を必要とする子どもの学校選択についての考察—選択肢の間（ハザマ）で生じる保護者の苦悩—
- ・発達障害の青年の育ちとそれを取り巻く人的環境との相互作用についての一考察—青年とそれを取り巻く人々の語りを通して—
- ・ESD 実践における読書の意味—学校教育における展開過程に着目して—